

竹取物語

(国語総合)

——帝はなぜ、かぐや姫から贈られた不死の薬を燃やしたのか、その真意について考える——

不死の薬は
どんな壺に
入っていたのか？

歴史

数学

不死の薬の量は
どのくらいか？

授業全体を
主に**英語**で進める



不死の薬を燃やす場面

帝は本当に
かぐや姫を
愛していたのか？

文学

芸術・文学

導き出した見解を
説得力をもたせて
表現する

授業のねらい

- ① 物事をいろいろな視点から考える楽しさを実感する
- ② 導き出した見解を説得力をもたせて表現する楽しさを実感する

「帝はなぜ、かぐや姫から贈られた不死の薬を燃やしたのだろう」。「竹取物語」を読んだ後で生徒たちに尋ねると、ほとんどの生徒が「愛するかぐや姫を失ったこの世界で、不死の身として生き続けても意味がないと思ったから。」と答えました。でも、本当にそうなのでしょうか。

人はともすると、先入観だけで物事を理解した気になることがあります。今回の授業では、物語最後の場面を**歴史・数学・文学**の各視点から分析し、不死の薬を燃やした帝の真意について考えてみたいと思います。そして、導き出した見解を、一人一人が**芸術的・文学的**センスを活かしながらパワーポイントを使ってプレゼンテーション資料にまとめ、発表・議論してみたいと思います。

また、今後グローバルな社会を生きていくことを視野に入れ、CLIL（**英語**で教科やテーマを学ぶ）の要素を含んだ授業にしたいと思います。

(1) 物語を読んだ直後の考え

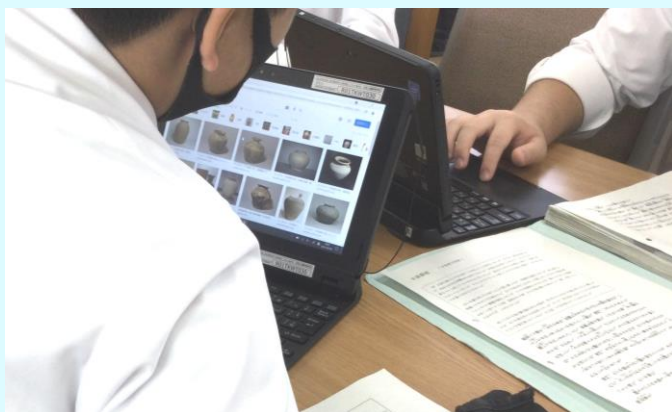


「竹取物語」を読んだ直後、「帝はなぜ、かぐや姫から贈られた不死の薬を燃やしたのだろう」と生徒たちに質問しました。すると、ほとんどの生徒が「愛するかぐや姫を失ったこの世界で、不死の身として生き続けても意味がないと思ったから。」と答えました。

とても率直な考えだと思いますが、他の可能性がないかどうか、先入観にとらわれずに様々な視点から皆で考えることにしました。

(2) 不死の薬はどんな壺に入っていたのか？

歴史

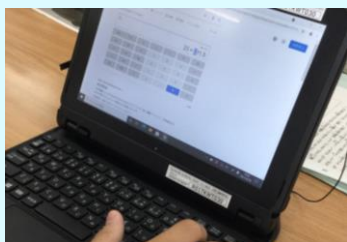


まず「不死の薬は何に入っていた？」と尋ねると、皆が「壺」と答えました。「どんな壺？」と尋ねると、生徒たちは身振り手振りで表し始めましたが、確信はない様子でした。そこで、竹取物語が成立した平安初期、薬は実際に主にどんな壺に入れられていたのか、タブレットで調べることにしました。

その結果、薬師如来像が手のひらに乗せている直径4cmほどの小さな薬壺もあれば、聖武天皇が使ったとされる直径23cmの薬壺（正倉院宝物）もあることが分かりました。かぐや姫が贈った薬壺について大小両方の可能性を考えることになりました。

(3) 不死の薬の量はどのくらい(何人分)か？

数学



大小それぞれの壺に、薬が何人分（一人分を大さじ1=15ccと仮定）入のかを考えることにしました。

小さな壺は、ほぼ原寸大のガラス瓶に水が何杯入るかを試したところ、約3人分であることが分かりました。一方、大きな壺は、実物大の写真から容積を算出することにしました。簡単ではありませんが、皆が工夫しながら算出方法を考え、実際にスクリーンを使いながら皆の前で説明する生徒もいました。その結果、大きい壺には約100人分の薬が入ることが分かりました。

小さい壺ならかぐや姫は翁、姫、帝といった限られた人に贈ろうとしたのに対し、大きい壺だと、100人の人間を不死にする薬を帝は贈られたことになります。

(4) 帝は本当にかぐや姫を愛していたのか？

文学



ここでもう一度、物語に描かれている帝の行動や様子を振り返ることにしました。

かぐや姫に初めて会った頃、帝は確にかぐや姫のことばかり心にかかり、文通をしていました。ところが、三年間の文通の後、かぐや姫が月に帰ることを知った帝は、動揺するどころか、かぐや姫を育てた翁や姫を心配するほど冷静で、またかぐや姫が月に帰る夜も自ら陣頭指揮に出向いていないことなどが読み取れました。

生徒たちは「帝は自分が戦いにも行ってないし、本当にかぐや姫を愛していたのだろうか？」と疑問を抱き始めました。

(5) 帝はなぜかぐや姫から贈られた不死の薬を燃やしたのか

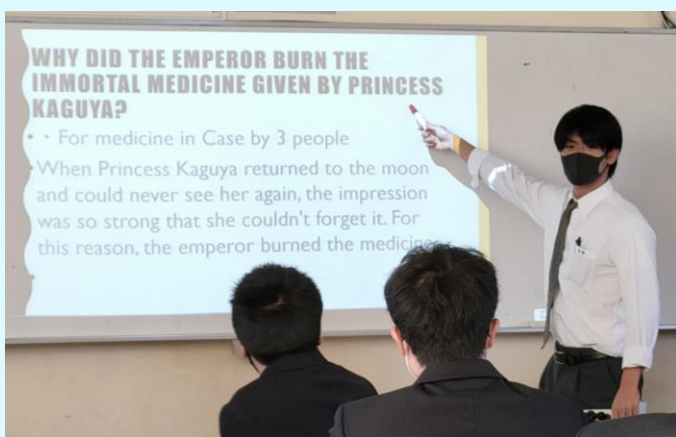


これまでの結果として、帝が薬を燃やした理由を考える際、①薬の量が少ない場合・多い場合の2通りに分ける必要がある、②帝が本当にかぐや姫を愛していたかどうかは疑問が残る、ということが分かりました。

「愛するかぐや姫を失った世界で不死の身として生き続けても意味がないと思ったから。」と答えていた生徒たちでしたが、薬を燃やした帝の真意についてもう一度考えることにしました。生徒たちは熱心に考え、周囲とも議論を交わしていました。

(6) 導き出した見解を説得力をもたせて表現する

芸術・文学



パワーポイントを使用し、自分の考えた成果を発表する資料を各自が英語で作成しました。パワーポイントの操作や英語の表現に不慣れな生徒も、友達同士で教え合ったり調べたり、放課後にA L Tにチェックしてもらったりしながら、熱心に作成しました。

「薬の量が多い場合、大勢の不死の者の間で頂上対決が起こり、国が乱れるのを恐れたから。」「月の属国にはならないという地上の独立宣言を見せつけるために、月に一番近い山で燃やした。」「文通の3年間で帝としての立場を自覚し、私情に溺れないよう振舞った。」などの鋭い意見が目立ち、質問や意見交換も活発に行われました。

授業の成果

- ① ある物事について考えるとき、単なる思い込みではなく、いろいろな視点から考えていくことの大切さや楽しさ、そして難しさを皆が実感しました。
- ② 自らの考えを周りに理解・共感してもらえるよう、工夫しながら表現することの大切さや楽しさ、難しさを皆が実感しました。